第4回 石岡市文化財調査報告会

平成30年

8月25日(土)

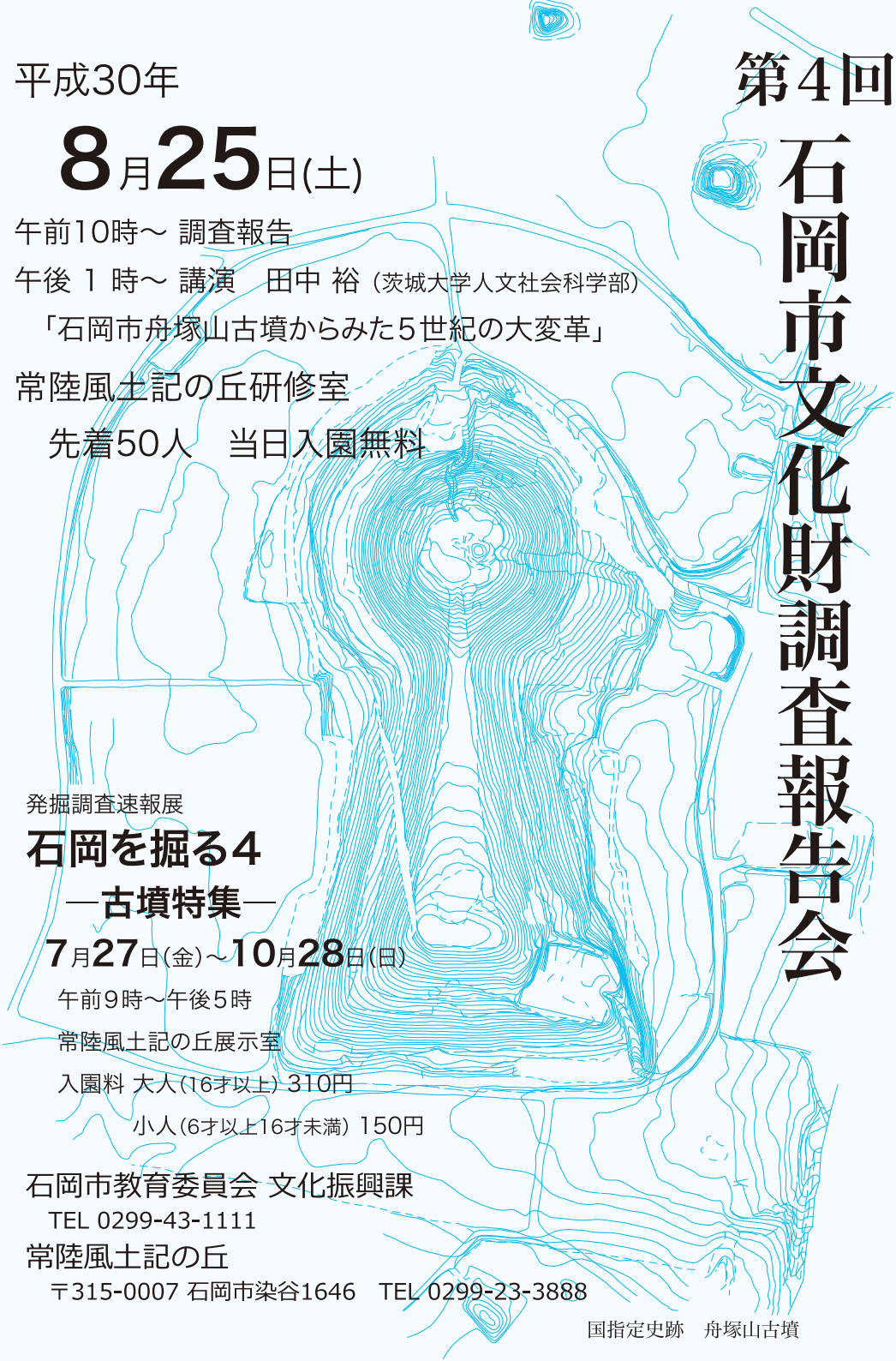
午前10時～ 調査報告

午後 1 時～ 講演　田中 裕（茨城大学人文社会科学部）

「石岡市舟塚山古墳からみた5世紀の大変革」

常陸風土記の丘研修室

先着50人　当日入園無料



発掘調査速報展

石岡を掘る4

―古墳特集―

7月27日(金)～10月28日(日)

午前9時～午後5時

常陸風土記の丘展示室

入園料 大人(16才以上) 310円

小人(6才以上16才未満) 150円

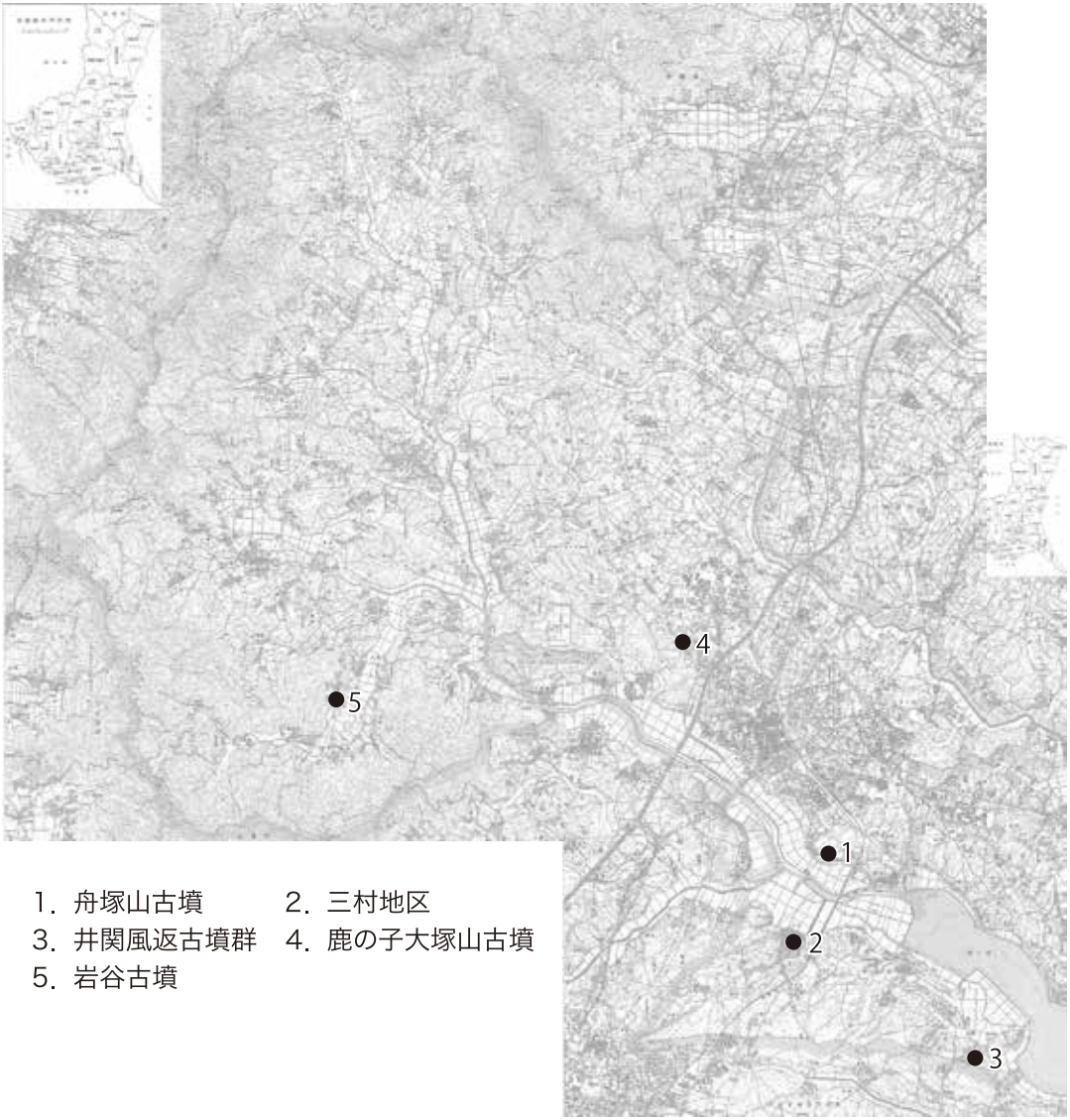
石岡市教育委員会 文化振興課

TEL 0299-43-1111

常陸風土記の丘

〒315-0007 石岡市染谷1646　TEL 0299-23-3888

国指定史跡　舟塚山古墳



1. 舟塚山古墳　　2. 三村地区
3. 井関風返古墳群　4. 鹿の子大塚山古墳
5. 岩谷古墳

●例言●

本冊子は、2018（平成30）年7月27日～10月28日を会期として、常陸風土記の丘展示室において開催する「石岡を掘る4」に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課（谷仲俊雄）が行いました。

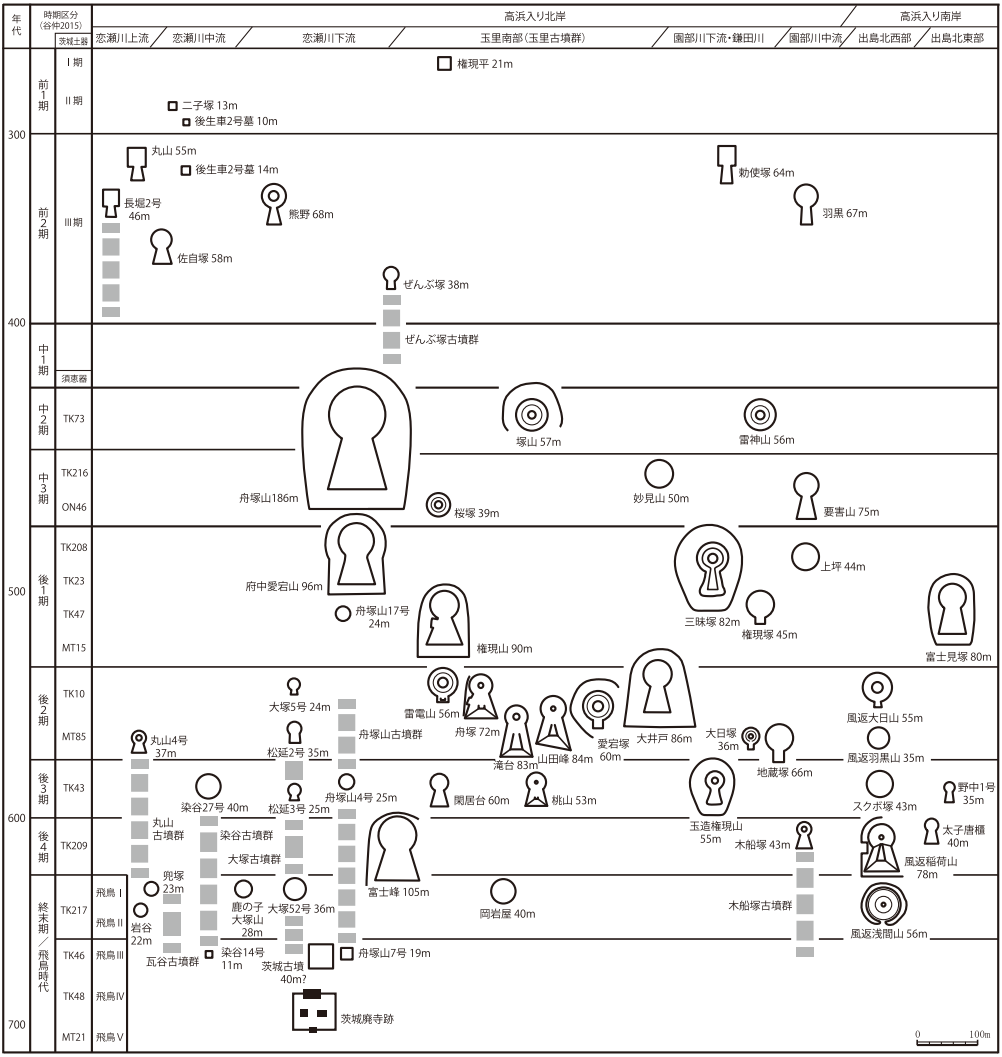
表紙の舟塚山古墳測量図は、『霞ヶ浦の前方後円墳』（佐々木憲一編、明治大学文学部考古学研究室発行、2018年）から転載いたしました。

本冊子で使用した地図は、国土地理院数値地図25000から部分転載いたしました。

●ご協力・ご助言をいただいた方々●（敬称略）

佐々木憲一　　田中　裕　　田沼　清

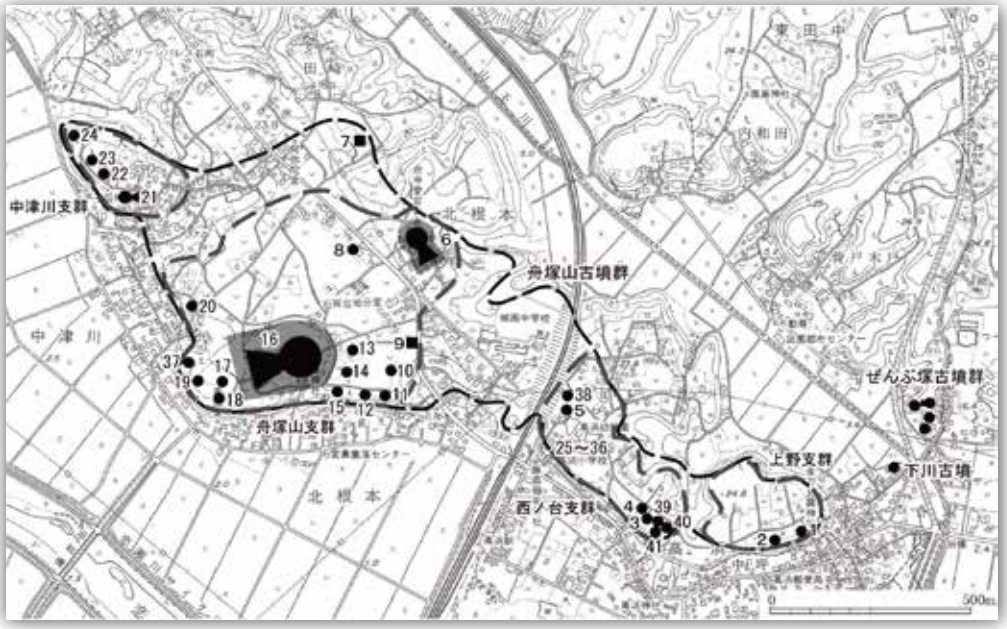
茨城大学人文社会科学部考古学研究室　地域文化財研究所　明治大学文学部考古学研究室



▲霞ヶ浦高浜入りの古墳編年表

舟塚山古墳群（ふなつかやま）－石岡の大古墳群－

舟塚山古墳群は、石岡市高浜から北根本、中津川にかけて存在する総数41基からなる大古墳群です。古墳時代前期から造営がはじまり、中期前半には墳丘長186mの前方後円墳、舟塚山古墳（16号墳）が造営されます。そして、中期末から後期初めには墳丘長97mの前方後円墳、府中愛宕山古墳（6号墳）が造営されます。大型古墳の造営はここで途絶えてしまうようですが、その後も後期、終末期と古墳の造営は続きます。断続的ながら古墳時代を通じて古墳の造営が続く、貴重な古墳群です。



▲舟塚山古墳群の分布

舟塚山古墳群一覧

支群	古墳名	墳形	墳丘長(m)	調査歴	時期	備考
上野	舟塚山１号墳	円墳	3.7			
	舟塚山２号墳	円墳	5			
西ノ台	舟塚山３号墳 （権現山２号墳 権現山古墳）	円墳	25.5		後期	石棺露出、埴輪
	舟塚山４号墳 （権現山１号墳 佐太郎塚）	円墳	20～25	1995年試掘	後期	石棺露出、埴輪 刀剣・金環・土器片・勾玉・管玉？
	舟塚山５号墳 （物見塚古墳）	円墳	10		後期	石棺あり？、埴輪
	舟塚山25号墳	不明	不明	1980年発見	後期～終末期	箱式石棺、金環２、人骨３、湮滅
	舟塚山26号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	明治33年小学校建築の際、 箱式石棺６基発見。 刀剣、鉄鏃、勾玉、人骨出土。 湮滅
	舟塚山27号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山28号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山29号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山30号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山31号墳	不明	不明	1900年発見	後期～終末期	
	舟塚山32号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	昭和８年小学校再建の際、 箱式石棺５基発見。 湮滅
	舟塚山33号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山34号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山35号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山36号墳	不明	不明	1933年発見	後期～終末期	
	舟塚山38号墳 （対馬塚古墳）	不明	不明			湮滅
	舟塚山39号墳 （権現山３号墳）	円墳？	10			
	舟塚山40号墳 （権現山４号墳）	円墳	5.2			
	舟塚山41号墳 （権現山５号墳）	円墳	3.2			
舟塚山	舟塚山６号墳 （府中愛宕山古墳）	前方後円墳	96.6	1897年発掘 1979年発掘	中期末 ～後期初	埴輪、土師器壺？
	舟塚山８号墳 （平足塚古墳）	前方後円墳？	90？	1897年発掘？	中期？	半壊、舟形埴輪？
	舟塚山９号墳	方墳	10	1976年発掘	終末期	石棺、人骨２体、湮滅
	舟塚山10号墳	不明	不明	1977年発掘	後期～終末期	箱式石棺、直刀、馬具、刀子、金環、玉類、人骨、湮滅
	舟塚山11号墳	前方後円墳？	20？			湮滅
	舟塚山12号墳	円墳	19	1977年発掘	後期～終末期	箱式石棺（礫床）、玉類、人骨、湮滅
	舟塚山13号墳	円墳	10			埴輪
	舟塚山14号墳	円墳	11.5	2000年測量	中期前半	箱式石棺露出 石製模造品、土師器、埴輪
	舟塚山15号墳	円墳	20	2008年試掘		土師器
	舟塚山16号墳 （舟塚山古墳）	前方後円墳	186	1963年測量 1972年発掘	中期前半	土師器・埴輪
	舟塚山17号墳	円墳	23.8	1972年発掘	中期後半	壺形土器・短甲・盾・直刀
	舟塚山18号墳	円墳	9			
	舟塚山19号墳	円墳	17.8			
	舟塚山20号墳	円墳	9.5			
	舟塚山37号墳	円墳	8			
中津川	舟塚山21号墳 （大日如来古墳 大日塚古墳 手子后古墳）	前方後円墳？	90？			半壊
	舟塚山22号墳 （古舘古墳）	円墳	12.5			
	舟塚山23号墳	円墳	14.5			半壊
	舟塚山24号墳	円墳？	4.1			石棺露出、ほぼ消滅
（天王塚）	舟塚山７号墳 （天王塚古墳）	方墳	19	2002年発掘	終末期	半壊、横穴式石室？

舟塚山古墳（ふなつかやまこふん）

ー物理探査で見えてきた埋葬施設ー

舟塚山古墳は、東国第2位の規模を誇る前方後円墳で、採集・出土している埴輪から、5世紀前葉の築造と考えられています。

埋葬施設は、これまで発掘調査が実施されたことはありませんが、東国第1位の群馬県太田天神山古墳と同じく、この時期の大王墓に採用されていた長持形石棺と考える説が有力でした。

平成23年度に物理探査（レーダー探査・磁気探査）が行われ、埋葬施設の様子が見えてきました。後円部墳頂では、レーダー探査で、東西14ｍ、南北6ｍの長大な埋葬施設と思われる反応が得られました。しかも、木棺が朽ちてつぶれてしまったような反応もあることから、石棺ではなく、木棺を粘土でくるんだ粘土槨の可能性が高くなりました。また、磁気探査では、埋葬施設の南西角付近に鉄製品の埋納が予測されるような反応が得られました。

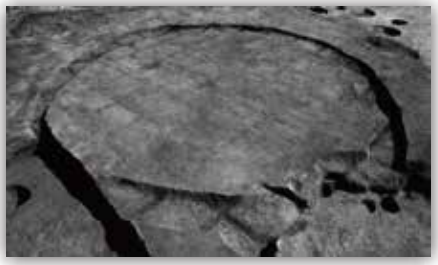
前方部墳頂でも、レーダー探査にて、長さ8ｍ、幅2.5ｍの埋葬施設の反応が得られています。

長持形石棺を採用しないところに、舟塚山古墳被葬者の独自性がうかがえるのかもしれません。

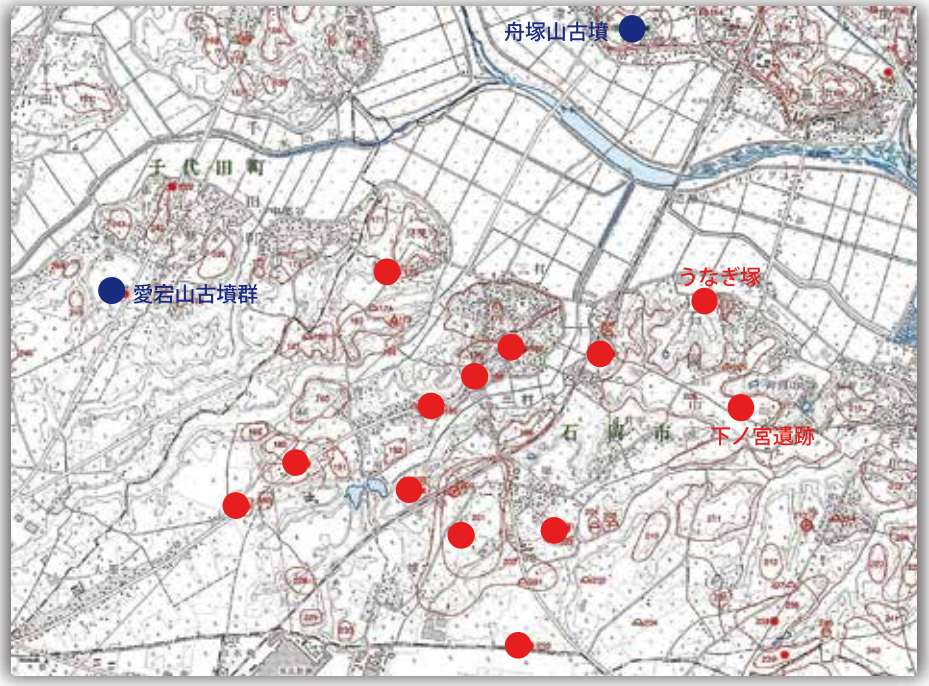
三村地区の古墳

石岡市南部の三村地区では、現在42基の古墳が確認されています。そのほかにも、下ノ宮遺跡の発掘調査では、円形にめぐる古墳の周溝と考えられる溝が確認されていることから、現在残る古墳のほかにも墳丘がすでに失われてしまった古墳も存在していたと考えられます。

三村地区出土と伝えられる人物埴輪は、いったいどの古墳から出土したのでしょうか。



▲下ノ宮遺跡の円形にめぐる溝



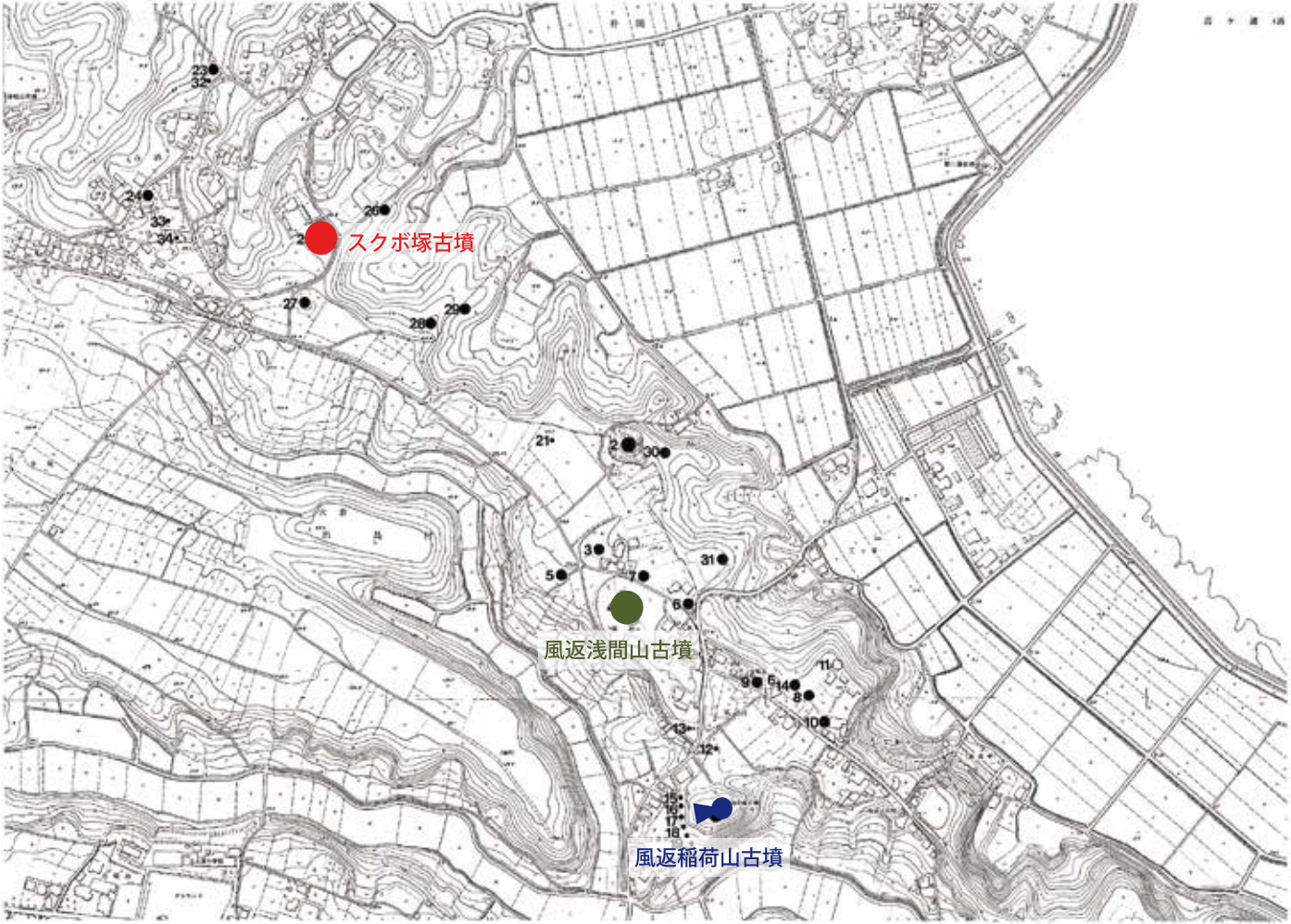
▲三村地区の古墳・古墳群の分布

井関（いせき）・風返（かざかえし）古墳群

出島半島北西部、石岡市井関からかすみがうら市安食字風返にまたがって存在する古墳群です。

古墳時代後期前葉、６世紀前葉頃から造営がはじまります。霞ヶ浦対岸の玉里地区南部では大型の前方後円墳が多く造営されていますが、井関・風返古墳群では、大型の円墳や帆立貝形古墳が築造されています。しかし、玉里地区南部での前方後円墳が途絶える後期末、７世紀初頭になると、前方後円墳の風返稲荷山古墳が築造されます。風返稲荷山古墳からは金銅装の馬具をはじめ、豊富な副葬品が出土しており、玉里地区からの勢力の移り変わりがうかがえます。

スクボ塚古墳は、墳丘径50m前後の大型の円墳です。採集されている埴輪から、６世紀後葉の築造と考えられています。埴輪の土には、金色に光る黒雲母の粒が多く含まれています。このような埴輪は、ほかの石岡地区や玉里地区の古墳では出土していないもので、筑波山南麓の古墳でみられるものです。埴輪は古墳での祭祀で重要な役割を果たすもの。筑波山麓地域との政治的なつながりを想定できるかもしれません。



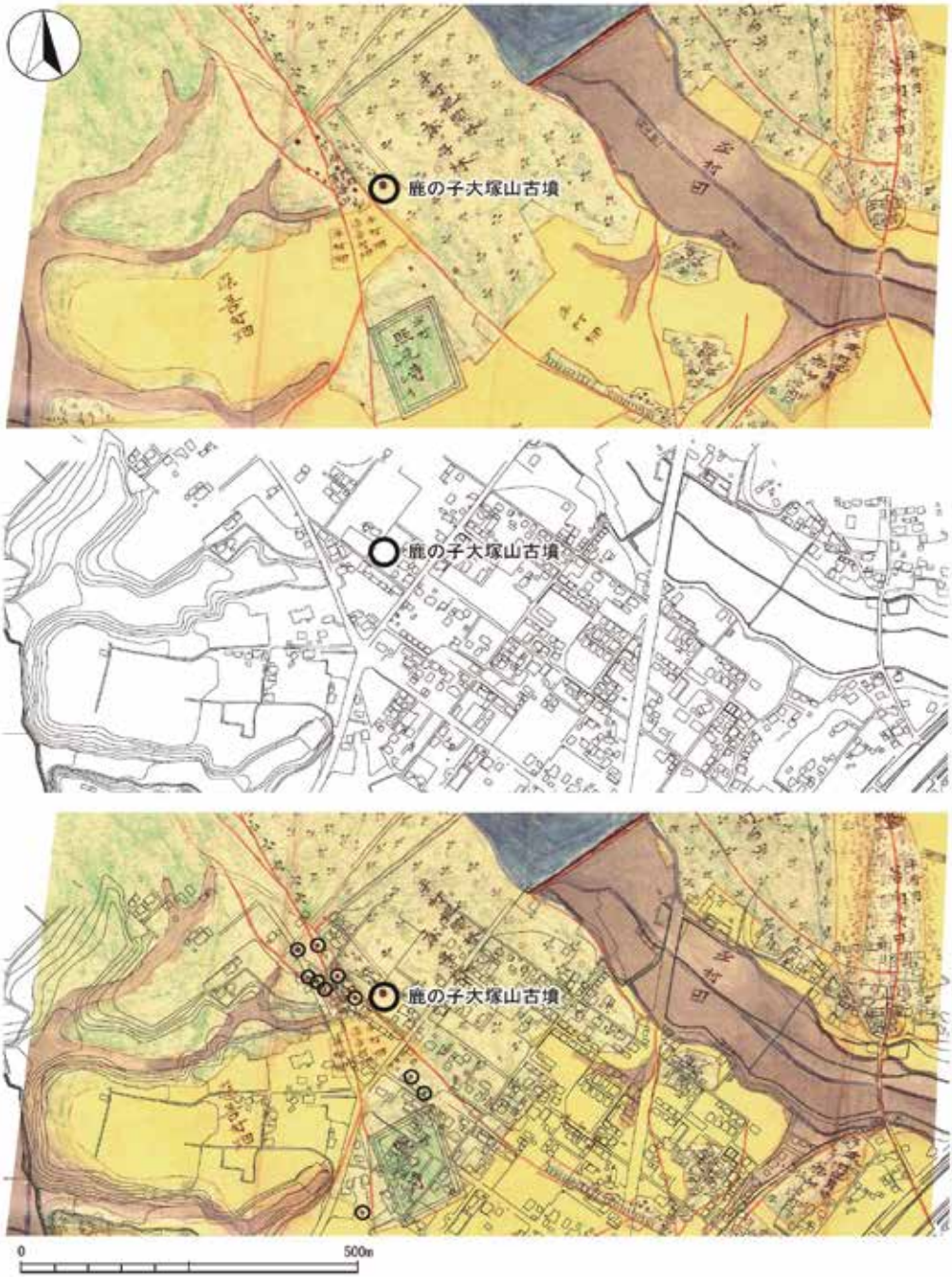
▲井関・風返古墳群の分布図

鹿の子大塚山古墳

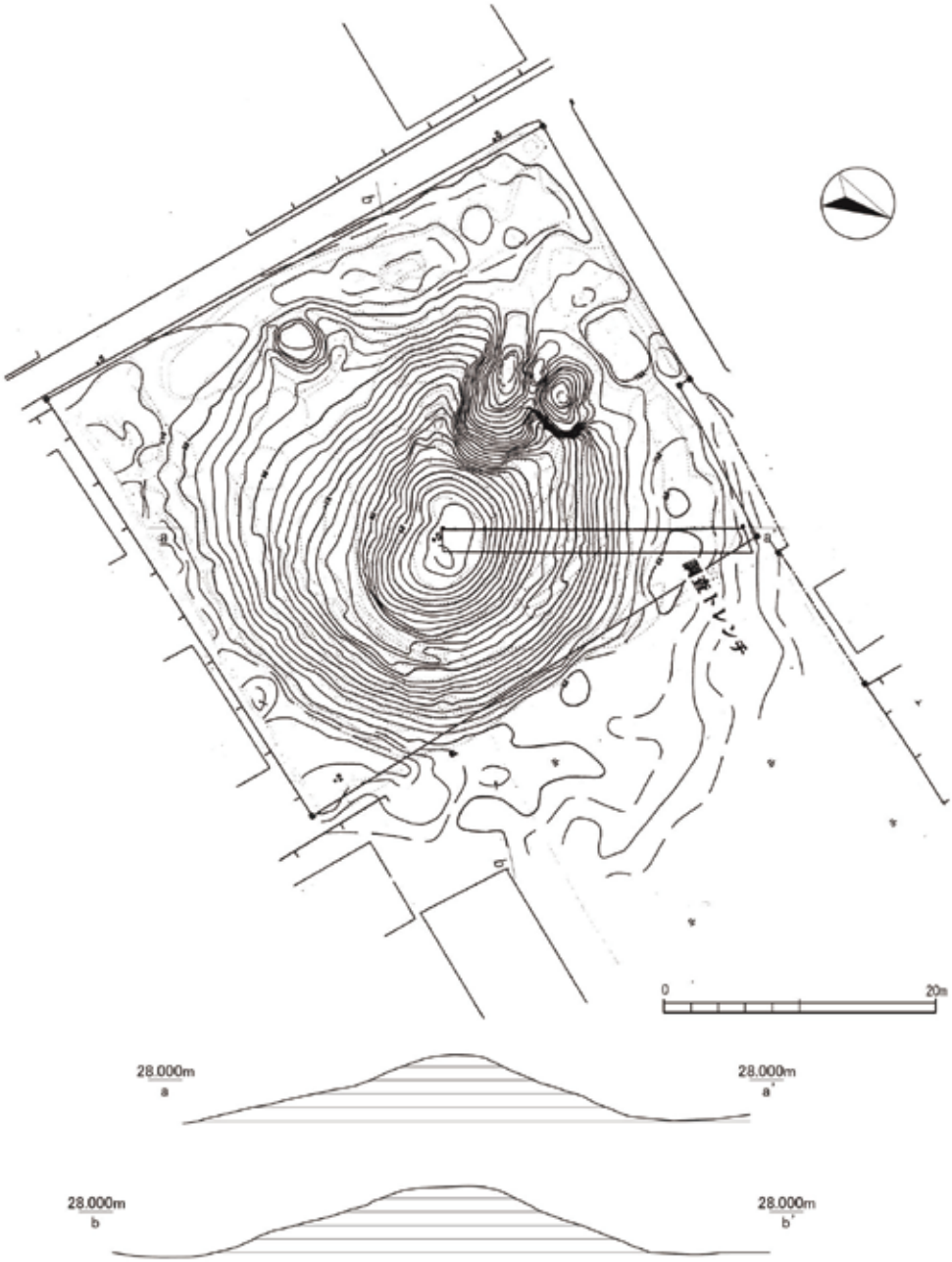
平成29年4月、石岡市の指定文化財（史跡）に指定された古墳です。円墳で墳丘径は28m。市内の古墳のなかではそれほど大きな古墳ではありません。ではなぜ、指定文化財となったのでしょうか。

理由のひとつは、古墳が築かれた時期です。墳丘の形態や、古墳時代に一般的な埴輪が発見されていないことから、古墳時代のなかでも終末期、7世紀前半の古墳と考えられています。古墳時代終末期は、前方後円墳が築造されなくなった時代で、大きな古墳も築造されなくなります。鹿の子大塚山古墳は、古墳時代を通してみればそれほど大きな古墳ではありませんが、終末期に限れば、市内最大級の古墳になります。

もうひとつの理由は、古墳の位置です。南東約2km、現在の石岡小学校にあたる常陸国府では、7世紀後半に建設がはじまります。鹿の子大塚山古墳は、国府に近い古墳で、しかも国府建設の直前段階の古墳となります。古墳から律令国家への動向を考えるうえで、鍵となる古墳と言えます。



▲正徳3年(1713)府中村上染谷絵図(原資料:照光寺蔵)



▲鹿の子大塚山古墳の測量図

岩谷古墳（いわやこふん） ―東日本大震災からの復旧をとげた古墳―

青田地区に存在する古墳で、横穴式石室が開口しています。石室の中には、小型の石仏が整然と安置されています。江戸時代の太子信仰によって奉納されたもので、それゆえ石室が良好な状態で保たれてきたと考えられます。

平成23年3月11日の東日本大震災によって、石室の壁石が1枚倒れてしまいました。古墳が築造されたのは、7世紀中葉頃。1300年以上にわたって維持されてきたものが壊れてしまったことになります。それだけあの地震の大きさがうかがえます。

平成29年度、所有者の全面的なご協力のもと、石室の修復工事が行われました。壁石が1枚倒れただけとは言っても、天井石を外さないと直すことができません。天井石を外すには、墳丘を掘削して石室を露出させなければいけません。墳丘の掘削とは、古墳の破壊です。しかし、壁石が倒れているということは、天井石を支えるものがないということで、石室のさらなる崩壊につながる危険性もありました。そこで、掘削によって失われる墳丘については発掘調査を行い、そのうえで石室を解体、修復し、墳丘の復元を行うこととなりました。

▲震災前の岩谷古墳（平成19年4月19日撮影）

羨道部分の墳丘の調査を行った①後，墳丘を除去し，羨道の石材を解体しました②③。

▲震災直後（平成23年3月17日撮影）

次に，前室部分の墳丘の調査を行い④，墳丘を除去しました⑤。

倒れていた壁石を除去すると⑥，石仏が下敷きになっていました⑦。

⑧

⑨

墳丘の調査⑧の後，石室の組み立てを行いました⑨⑩。

⑩

⑪

壁石の転倒の原因となっていた壁石と天井石の隙間には，埋め石を行いました⑪。

⑫

⑬

⑭

石室組み立て⑫の後，墳丘を復元し，下敷きになっていた石仏や，石室解体に伴って移動していた石仏や石碑も元に戻し，修復工事は完了しました⑬⑭。

文化財調査報告会関連展示・発掘調査速報展

石岡を掘る４　古墳特集

平成 30 年 7 月 27 日発行

編　集　　石岡市教育委員会　文化振興課

発　行　　石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680-1

常陸風土記の丘

〒315-0007 茨城県石岡市染谷 1646